

青い森鉄道利活用アクション事業 業務完了報告書

【業務名】

青い森鉄道利活用アクション事業

「青い森鉄道 おいしさわくわく秋の収穫列車」

平成22年2月

特定非営利活動法人 ACTY

【目次】

1	はじめに	1
2	取組の企画	5
3	取組の実施状況	8
4	取組の検証	18
5	取組を踏まえた展開	24
6	終わりに	25

1. はじめに

◇ 日頃の活動

I、地域資源をいかした新たな賑わいを創出し、観光資源として魅力を高め、住民にとっても潤いのある生活空間を考えます。活動を通じて住民が地域の魅力を満喫し、恵まれた地域資源を再認識し、自分達のまちの誇りについて表現出来る機会を提供します。活動がもっとよいまちにという新たな魅力の創造につながり、将来のビジョンを描き住民が個性ある地域づくりに積極的に参画できる環境を整備していきます。

活動していく中でポイントとして考えているのは、

- ・ 情報発信の重要性 → 八戸らしさを明確に表現することで八戸の認知度を高める
- ・ 観光振興プロジェクトを積極的に進め、交流人口を増やす
- ・ プロジェクトに参画することがメリットにつながるよう経済効果を考える
- ・ 地域の受入れ体制、組織体制を整える → 担い手の育成
- ・ 行政の役割と民間の役割が明確に見えるまちづくりを考える
- ・ 企画力と実行するノウハウで妥協はしない
- ・ 地域が抱える課題を把握し、解決につながる活動をする

II、2009 年度の活動

① 海物語—地域密着体験型みなとまちづくりin八戸開発事業～みなとの拠点づくり～

- ・ 子供から大人までが安全安心に暮らせる理想的な生活空間を港拠点に創る
地域拠点づくり⇒地域力を高め全国に誇れる個性あふれるみなとまちとは・・を肌で感じることができる
- ・ 八戸の海、人、情報が密着した地域づくりに貢献し、八戸らしさを感じられる拠点作りを進める
- ・ 地域の受け入れ態勢を整える
- ・ 地域の人たちが連携し、八戸の海をアピールしながら、海をいかした生活空間を完成させていく
- ・ 船が行き交い水辺のまちが栄え、常に人が集まってくる温かみのあるまちづくりを進める
海の魅力と海の交通を使うことの利便性を全面的に引き出しながら、地域と地域に存在する資源を結んでいき、交通渋滞がなく、県境もない海を使い水上バスの運航を実施

② 海物語—燕島で地域密着型の体験ツアー開発事業

- ・ 地域住民が八戸の海の魅力を満喫する→観光客の誘致につなげる
- ・ シーズンをとおして実施することにより波及効果が大きい
- ・ 既存の地域資源の魅力をアピールし観光資源としていかす方法を学ぶ
- ・ 魅力を発信することにより人は集まってくる
- ・ 人が集まることにより地域の動きが活発になる

- ③ 海物語—市民の社会参加で八戸みなとづくり促進事業「みなと博ランカイ」実施
- ・ 人材育成(アイデア、構想、実施計画、実行、体験、評価)
 - (ア) 企画段階から関わることにより、まちづくりのノウハウを学ぶ
 - A、団塊世代、一般ボランティア、学生ボランティア(一般と大学生によるボランティアリーダーと中高生の当日ボランティア)の役割分担
 - B、担当箇所について準備から関わることにより責任感をもつ→モチベーションをアップ
 - ・ 八戸らしさを感じられる拠点作り(八戸 ポートアイランドで実施)
 - (ア) 海に面した古いまちなみが残るエリアに、レトロでなおかつ新しい感覚を取り入れて、高齢者から子供までが安全安心に暮らせる理想的な生活空間
 - (イ) 個性を表現
 - (ウ) 八戸の海、人、情報が密着した地域づくりに貢献
 - (エ) 八戸の海をアピールしながら、海をいかした生活空間
 - (オ) 市民の力を結集して加藤登紀子さんのコンサートを開催。
 - ・ 公共交通の利活用促進
 - (ア) 環境問題、高齢化社会に対応できるよう公共交通を利用してもらう実証実験
 - (イ) シャトルバスは有料(片道 100 円)
 - (ウ) 路線バスに乗り継いでシャトルバスに乗車する方に関しては、シャトルバスの無料券を配布
 - ⇒市営バス、南部バスの全路線バスに無料券を設置
 - ・ 理想的な生活空間を実証実験しながら仮設のまちから常設のまちに移行することを検討
 - ⇒まちづくりのノウハウを学ぶ
- ④ 地方の元気再生事業「八戸みんなて描く海とまちの物語」プロジェクト
- ・ 八戸みなと魅力体験ツアー
 - 地域の魅力を実際に体験→伝える
 - 朝市、魚市場セリ市見学、市場での朝ごはん、種差海岸散策
 - 常設ツアーとするには→さらなる付加価値について検討
 - ガイド養成
 - ・ ネガティブな地域資源をいかした特産品づくり
 - ネガティブなイメージの資源→目線を変えて個性として表現することにより、地域資源を魅力あるものにする。
 - 一例として、「うみねこぼくだん」のお菓子作りに取り組む→うみねこのパッケージとそのおしりからとびだしてくるお菓子。お菓子はうみねこのフンのデザイン
 - ・ 八戸港 24 時間プロジェクト
 - “観光”⇒地域密着体験
 - 地域住民が楽しむライフスタイルを発信し、観光客がその生活空間に潜入することにより

非日常空間を楽しむ

“朝みなと”船(水上バス)で乗り付けて朝市体験、鮫観光協会・燕島神社との連携
“夜みなと”太平洋の Sunset を見よう！！音の日本の百選「ウミネコの声」を聞こう！！館
鼻のみなとのネオン(立ち並ぶまき網船のネオン)と夜バー(特設)

- ・ 情報発信 いさば！？かっちゃブロッガー
地域からの生の情報を発信。ブログの立上。各観光エリアからは観光客の声もアップ。将来はお買物も可能に。
寺子屋プロジェクトとリンクさせる
- ・ 中心街との連携
中心街交流拠点は、単なる情報発信の場のみならず、受入れ体制とネットワーク、各方面へ人を送り込むシステムを考える。
交通整備を考える
- ・ みなとまちづくり寺子屋プロジェクト
他の5つとのプロジェクトとリンクさせながら寺子屋プロジェクトを進める。
講師を招き実践にもとづいたワークショップ。
具体的な事例をもとにシュミレーションする。

◇受託した動機

I、まちづくりを進める中で交通アクセスの整備は重要なことと考えています。また、利用価値の高い地域資源として考えています。

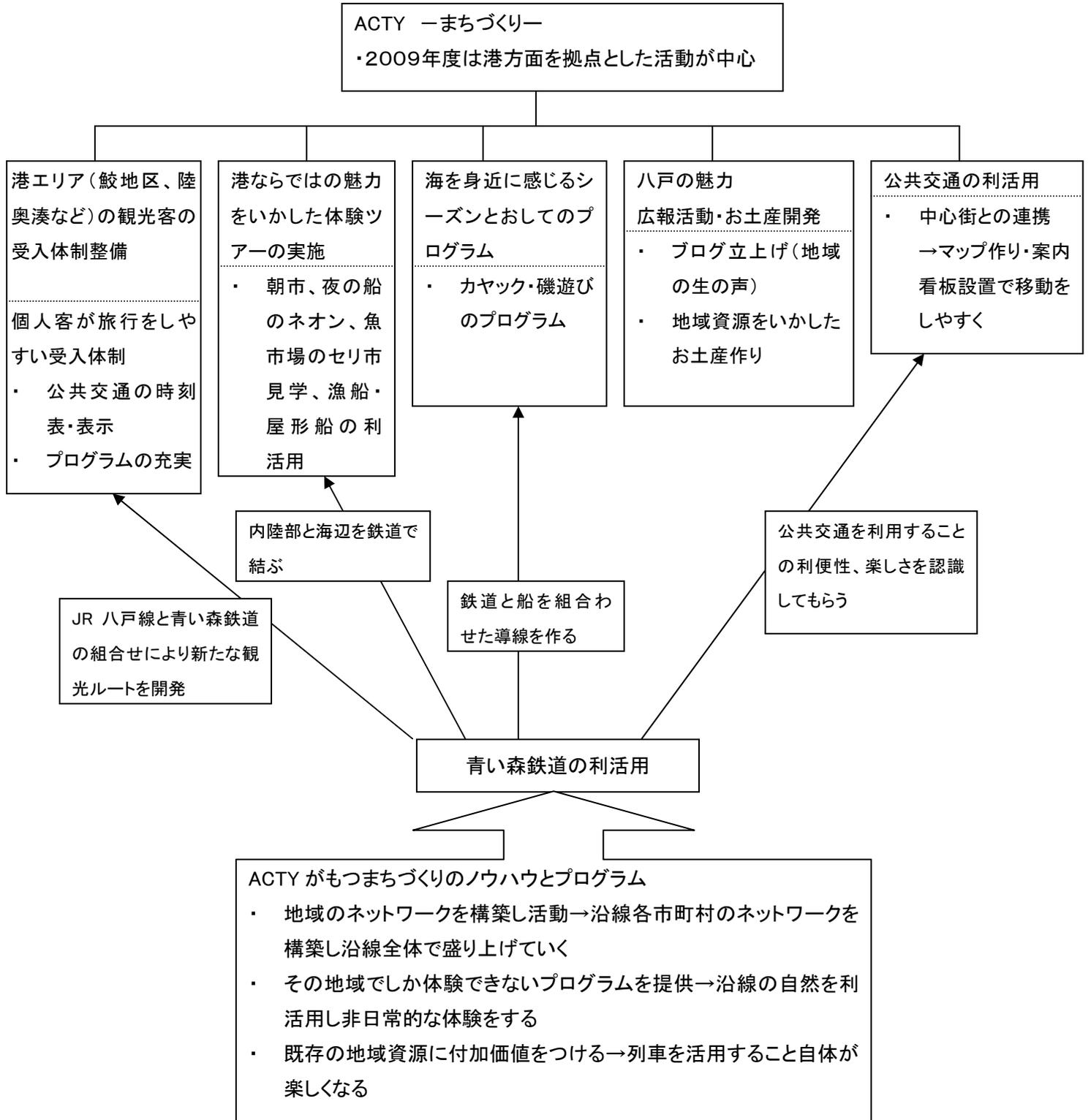
① ACTY の活動の中で、下記のような実証実験を繰り返してきました

- ・ 地域間を移動する新しい交通手段として船の活用を試す(シャトル船の運航)
- ・ パークアンドライド
- ・ シャトルバスの運行で公共交通の利用を促進する(JR や路線バス)→路線バスから乗りついでシャトルバスを利用した場合は乗車料を無料とする

② 考えるべきポイント

- ・ 公共の交通手段を利活用促進を進めるには、地域の魅力発信と共に進め総括的なまちづくりを考える
- ・ 沿線のネットワークが必要
- ・ 地域資源に付加価値をつけ、“普通”を“魅力”に変える→地域の特性を徹底的にいかす
- ・ その地域でしか体験できないプログラム、空間を演出する

Ⅱ、日頃の取組を青い森鉄道の利活用にどのように結びつけるか



2. 取組の企画

◇ 企画立案について

6月22日	受託予定事業者説明会(県庁)
6月23日	ACTY 企画会議(全体構想)
7月5日	企画書提出
7月7日	ACTY 企画会議
8月20日	ACTY 企画会議(詳細について)
8月31日	畑での野菜収穫依頼→目時駅周辺の畑(小山さんに依頼)
9月1日	里山夢食堂 赤坂さん、どんぐりの家 西山さんに調理を依頼 収穫出来る野菜・果物(白菜、人参、大根、ねぎ、りんご)など を加えての調理を依頼
9月3日	南部町へ協力依頼(打合せ)
9月4日	里山夢食堂 手順について打合せ
9月7日	ACTY 企画会議
9月8日	県庁にて中間報告会
9月17日	ポスター・チラシ出来上がり
9月18日	関係者・前回参加者などへチラシ送付 青森県鉄道管理事務所に、青い森鉄道各駅にポスター掲示のお願い
10月1日	里山夢食堂 打合せ
10月1日	ACTY 企画会議 ルート図の詳細と内容を整理 カゴなど備品準備
10月3日	ルート下見 → 実際のスケジュール通りに実行する
10月5日	青い森鉄道に切符の手配
10月5日	申し込み承り書 送付
10月6日	畑の収穫野菜の最終確認(農家の小山さん)→調理メニューを確認
10月7日	ボランティアの打合せと製作(横断幕、小旗)
10月8日	南部町役場(松井さん)に、横断幕、小旗を持っていく(当日、歓迎用) ACTY 最終打合せ
10月10日	調理メニュー試食

◇ねらい、想定される効果について

- ・青い森鉄道沿線の全地域を一つの大きなエリアとしてとらえ、目標を掲げ相互理解を深めながら協働で地域の活性化を考える
- ・豊富な地域資源に更なる付加価値をつけ、点で活動していた内容をテーマに沿って線で結ぶことにより、地域の魅力を発信する
- ・公共交通の利活用の利便性と魅力を体験してもらう
- ・鉄道を利用する旅の楽しさを体験する
- ・身近なところに感動するような魅力が、たくさんあることに気付く



地域住民の意識改革→楽しさ、親近感を感じてもらい、沿線の魅力を自ら意識し発信していく
 ⇒地域の魅力を発信することにより、鉄道利用につなげる
 ⇒魅力ある鉄道として発信していくことにより、地域に交流人口を増やす

◇広報について

ポスター・チラシを作成し、青い森鉄道各駅、県庁、市役所などに掲示をしてもらった。
 各関係機関、市町村、前回参加者、協力して下さった皆様にチラシにてご案内し、短期間の広報で定員を満たしてしまつたため、広く広報活動をするにはいたらなかった。
 コミュニティラジオ局 BeFM では地域情報として案内をしてもらった。
 当日の取材はデーリー東北の一社のみであった。

チラシ A4 300 枚

ポスター
A3 100 枚



参加費無料
 参加者募集中!
 開催日: 2009年10月12日(祝・月)
 集合: 青い森鉄道各駅(各駅)
 開始: 10時(各駅)
 終了: 15時(各駅)
 定員: 先着40名(各駅)
 主催: NPO法人 ACTY
 TEL: 0178-24-7670 FAX: 0178-38-8021
 E-mail: info@npo-acty.jp

◇関係者との連携について

・行政機関ー

- 青森県ー 各事業実施団体との連絡会議実施
県の記者クラブへのプレスリリース
- 八戸市ー 市の記者クラブへのプレスリリース
庁内への案内
当日スタッフ
- 南部町ー 各関係団体との調整
ふれあい公園での設営一式(テント、テーブルなど)
当日スタッフ(苫米地駅へ到着時の横断幕を依頼)

・民間ー

- 小山雅章ー 野菜収穫のため畑を提供
- どんぐりの家ー ほかほか赤飯サンド提供、ふれあい公園にてかけサラダ準備
- ふくちフレッシュ会ー 三戸駅から乗り込み、電車内でにんにくの販売
ふれあい公園にてむぎかけを準備
- 支え合いネットワークなんぶー 剣吉駅から乗り込み、電車内でスイーツの販売
ふれあい公園にてコーヒー、おしるこなどの販売を依頼
- 山形製麺所ー 諏訪ノ平駅から乗り込み、電車内でむぎかけの販売
- ほろほろー 歌声列車
- 一般ボランティアー 目時駅で歓迎の横断幕

3. 取組の実施状況

◆アクション事業概要

事業名 青い森鉄道利活用アクション事業
青い森鉄道 おいしさわくわく秋の収穫列車
イベント名 わくわく歌声列車で秋の収穫祭
日時 2009年10月12日(祝・月曜日) 9:30a.m. 受付・集合
開催場所 八戸駅(青い森鉄道)⇒目時駅(青い森鉄道)⇒苫米地駅(徒歩)⇒ふれあい公園
集合：八戸駅 自由通路集合

内 容

- ① 青い森鉄道全線利活用 八戸駅⇒目時駅下車 目時駅⇒苫米地駅下車 ふれあい公園
ア、八戸駅から目時駅までは歌声列車とする(キーボードとギターで車両のみなどで)
← ほろほろ
イ、目時駅と苫米地駅到着時に歓迎セレモニー(横断幕) ← 有償ボランティアにて対応
+地域の協力
ウ、目時駅横の畑で野菜収穫 →カゴを配布し一人一品持ち帰り その他は購入
エ、苫米地のふれあい公園で、収穫した野菜を調理
オ、試食
- ② 地域の特産品を認知
ア、目時駅から苫米地駅まで、各駅から地域の特産品を売りに乗り込んでくる
← 産直列車
イ、三戸駅→スイーツ販売 諏訪ノ平駅→むぎかけ販売 剣吉駅→にんにく販売

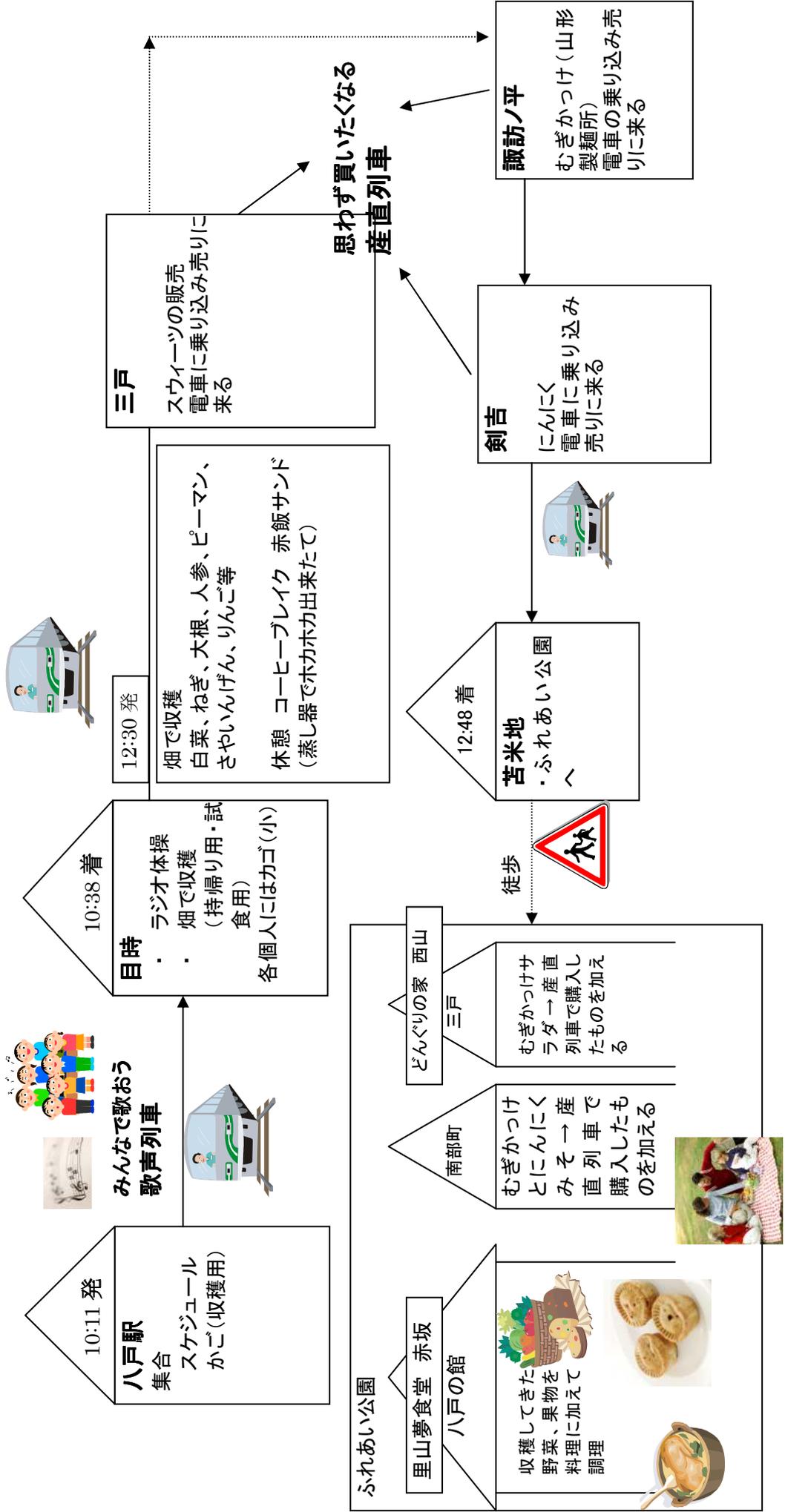
青い森鉄道利活用アクション事業

青い森鉄道 おいしさわくわく秋の収穫列車(イベント名: わくわく歌声列車で秋の収穫祭)

日時: 10月12日(祝・月曜日) 9:30a.m. 受付・集合

集合場所: 八戸駅 自由通路集合

募集人員: 40名



10月12日(祝・月曜日) イベント名:わくわく歌声列車で秋の収穫祭

時間	内容	八戸駅	北高岩駅	苫米地駅		剣吉駅	諏訪ノ平	三戸駅	目時駅
				苫米地駅	ふれあい公園				
8:30		ポジションニング確認 スタンバイ 受付開始(カゴ・資料)							
9:00		受付:中村・高橋・芳賀							
9:30	参加者集合・受付 9:45 挨拶・説明	挨拶・説明 ホームへ 誘導							
10:00	10:00 移動 10:11 青鉄 八戸発 歌声列車	常盤さん 大澤さん 10:00に一緒に ホームへ移動							小山 ボランティア (山城・鈴木)着 10:38 着 人数確認→2班にわけ 畑に移動(第一班) ホカホカ赤飯サンド(第二班) 10:45 収穫方法説明 (小山)→収穫開始 常盤さん・大澤さん→タクシ にて三戸駅へ(交通費) 畑に移動(第二班) ホカホカ赤飯サンド(第一班)
10:30	10:38 着 目時駅 畑で収穫			テント・テーブル用意					休憩 トイレの確認 12:15 集合・移動 西山さん移動
11:00	ホカホカ赤飯サンド			八戸 里山夢食堂 準備 南部町 かけの準備					
11:30	11:45 畑で休憩								
12:00					かけサラダ準備				
12:30	12:30 発 目時駅 12:48 着 苫米地駅				12:48 到着→徒歩	12:39 むぎかけ 販売 乗車 (山形製麺所)	12:35 スイーツ 販売 乗車		目時発
13:00	ふれあい公園到着 調理班と遊び組(ビ ーチハレーなど)				ふれあい公園到着	12:44 にんにく 販売 乗車			
13:30	わくわく 試食会								
14:00									
14:30	アンケート・挨拶								
15:00	解散								

15:08 八戸駅行き

15:16 三戸駅行き

申込者へのご案内 (コピー)

2009年10月7日

申込者各位

特定非営利活動法人 ACTY
理事長 町田 直子

**青い森鉄道利活用アクションプラン実践パイロット事業
「わくわく歌声列車で秋の収穫祭」の当日のご案内**

拝啓、仲秋の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。
この度は、「わくわく歌声列車で秋の収穫祭」へお申込くださり、誠にありがとうございます。
つきましては、下記内容にてご確認よろしくお願いいたします。

敬具

記

ご不明な点などがございましたらこちらまで

特定非営利活動法人 ACTY
電話 0178-24-7670
FAX 0178-38-8021

- ・開催日 2009年10月12日(祝・月)
- ・集合場所 JR八戸駅自由通路(在来線改札前)
- ・集合時間 午前9:30(時間厳守でお願いします)
- ・参加料 無料(電車賃は自己負担となります)
八戸駅 → 目時駅 大人 530円 小人 270円
目時駅 → 苫米地駅 大人 360円 小人 180円
* 乗車運賃は当日受付でお支払下さい。(団体割引金額になります)
- ・解散場所 南部町「ふれあい公園」
- ・解散時間 午後15時(予定)
※ 南部町「ふれあい公園」で解散となります。帰りの乗車券は各自でご購入ください。
(苫米地駅より 八戸駅行 → 15:08 15:57 260円 剣吉駅行 → 15:16 250円)

- ★ 当日は、敷物、飲み物、軽食(おにぎり等)、雨具、下記の引換券をお持ちください。
- ★ 暖かく動きやすい服装でご参加ください。

以上

当日忘れずにお持ち下さい

あなたのグループの色は あか です。

1			
2			
3			
4			

乗車運賃(小人は半額)

(八戸駅→目時駅 530円 目時駅→苫米地駅 360円)

大人
小人

合計 _____ **円**

※ 当日受付でお支払下さい。
(つり銭の無いようお願いいたします)

**赤飯サンド
引換券
2枚**

特定非営利活動法人
ACTY

イベント開催日 名札 見本

青い森鉄道
に乗って

わくわく歌声列車で 秋の収穫祭

2009年10月12日(祝・月)

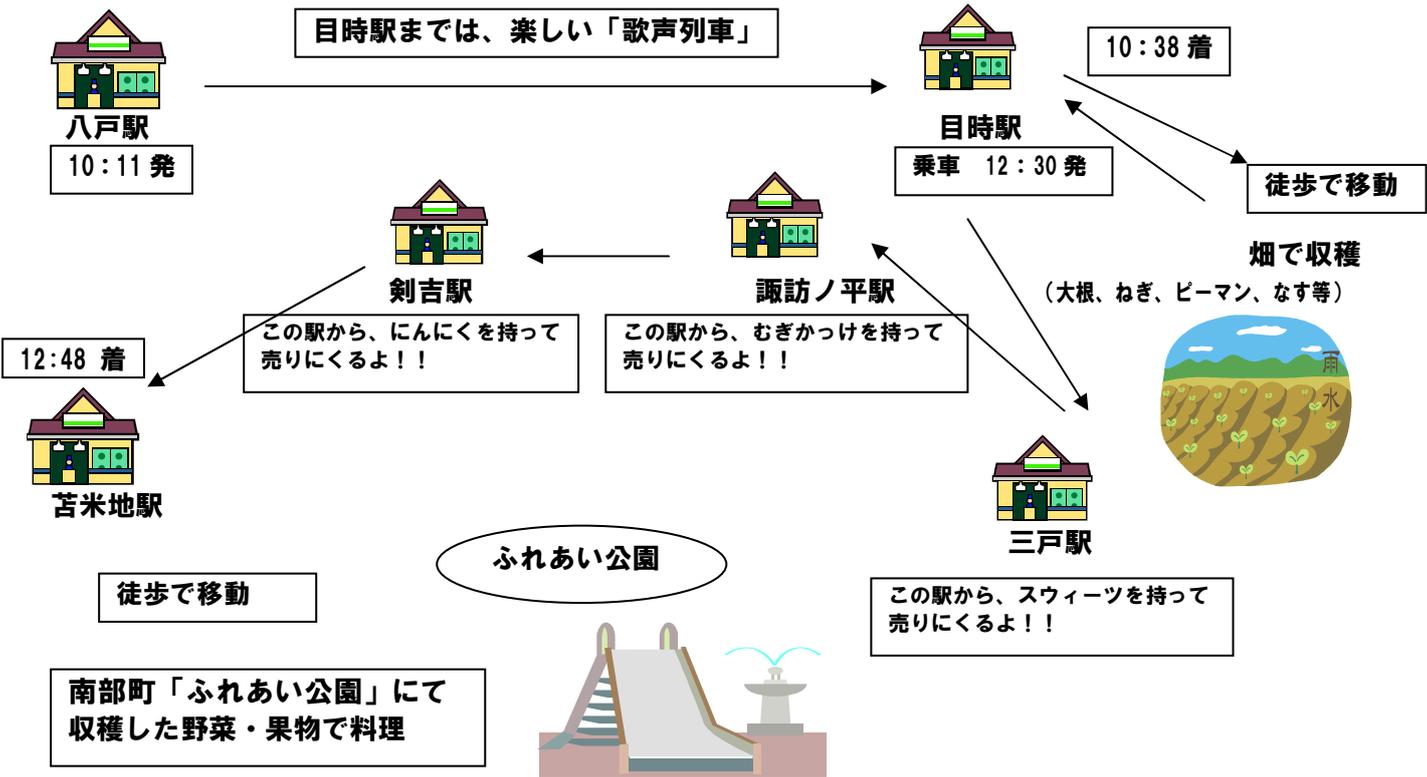


グループリーダー

八戸花子

Active Community

イベント当日に配布したルート図



苦労した点

- ① 電車の発着時間に合わせて、乗り遅れがないように進行しなければならない
- ② 歌声列車、産直列車の許可
- ③ 野菜の収穫について、出来具合など天候に左右されるため、当日までにどんな野菜が収穫できるのかわからず、何度も協力してくれる農家の方に確認しながら調理メニューをその都度考えなおし対応出来るようにした
- ④ 市町村・民間団体の調整
- ⑤ 雨の場合などの対応
- ⑥ 新型インフルエンザ感染予防のため、消毒液などで衛生面の対応

工夫した点

- ① 参加者全員の顔を覚えて、乗り遅れ、渡し忘れのないように、大型の全員の名札を作成し色分けをした。グループの色ごとにスタッフがついて引率をし、全員が流れを把握して対応できるように、詳細にわたり資料作成をしてシミュレーションを重ねた
- ② スロウな時間と非日常的な空間を過ごせるようにプログラム内容を検討した
- ③ ツアー参加者が一体感を感じられるように、歌声列車や産直列車で連帯意識を持てるように工夫をした
- ④ 電車に乗るだけ、畑の野菜を見るだけ、食べるだけという、通常の行動に付加価値(歌声列車、産直列車、畑に入る→野菜を自分で収穫する、自然の景色を見ながら調理しながら自分たちで収穫した野菜を食べる)をつけツアーをコーディネートすることにより、沿線の景色、自然をより身近にかんじてもらい、魅力を認識してもらえるように工夫をした



十月三日
下見



目時駅周辺
散歩ルートを下見
ゆったり歩けそうなコースを発見





忘れ物などないか確認しあいながら、準備開始！
荷物を運び込みます
まだ元気です！！



準備万端！ メンバーで記念撮影



参加者もメンバーもみんなワクワク、出発前



歌声列車。いざ出発！！





目時駅に到着う〜。出迎えてもら
つて、カゴ持って、さあ収穫だあ!!



畑に入って…。
さあ、何を採ろうか
なあ…。
大根?ねぎ?
なすび?



腹がへっては戦(いく
さ)が出来ぬ
畑でのおやつといえ
ば、やっぱりこれですよ
ね。
こびりっこ(赤飯をせん
べいではさんだもの)

もっと欲しい人は
買ってねえ…



ゆ〜〜っくり、
の〜〜んびりと
散歩しましたあ
〜。
あ〜、気持ちい
い…





お土産いっぱい持って満足、満足。でも、まだまだこれからこれから・・・。



はい、次はそばかけ、むぎかけですよ。

帰りの電車は、産直列車。スイーツはいかがですかあ。



青空がとっても気持ちいいねえ



お待ちしております。ようこそ、苦米地駅へ。ようこそ、南部町へ。ゆっくり遊んで行ってください。

ふう～～、やっと一息。
やっぱり新鮮な野菜で作った料理はおいしいねえ。



わあ、つぎは何、何？
デザート？



なんと、おしゃれなカフェまで登場です。

皆さん、本当にご協力ありがとうございました。

4. 取組の検証

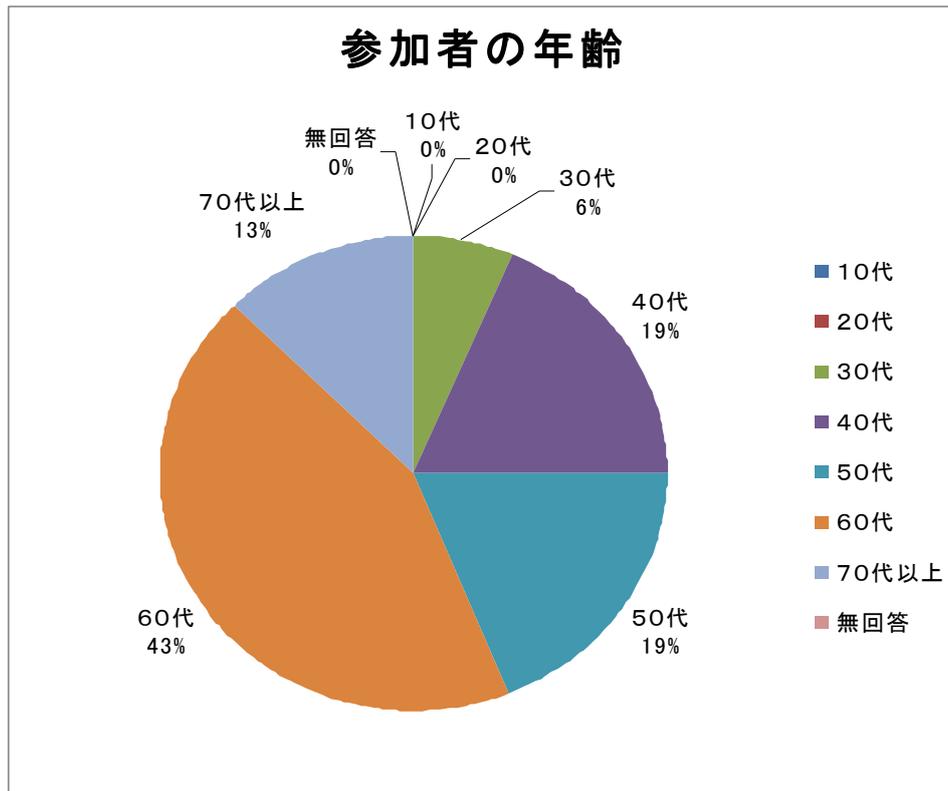
◇第三者の視点によるイベントの検証

①アンケートの調査結果

回答者の属性

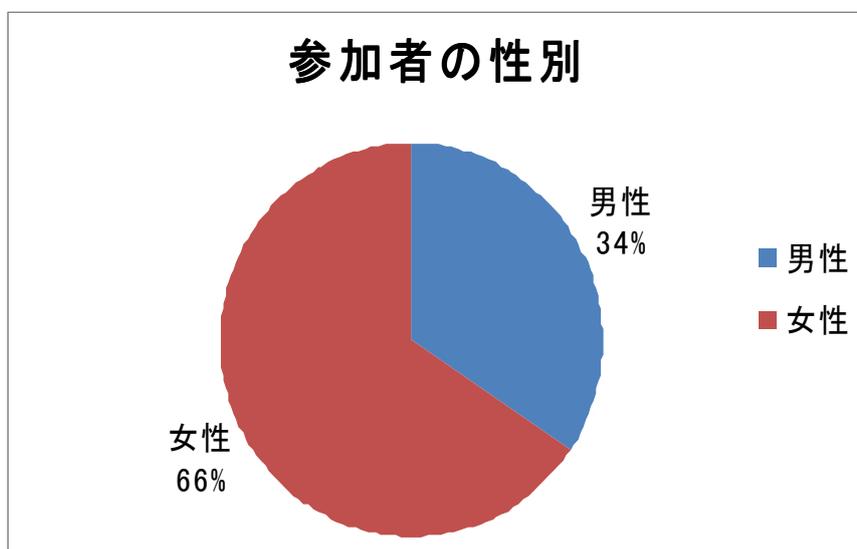
(1) 年齢

回答者の年齢は、「60代」が43%で最も高い割合を占め、次いで「40代」「50代」が19%、「70代以上」が13%となっています。



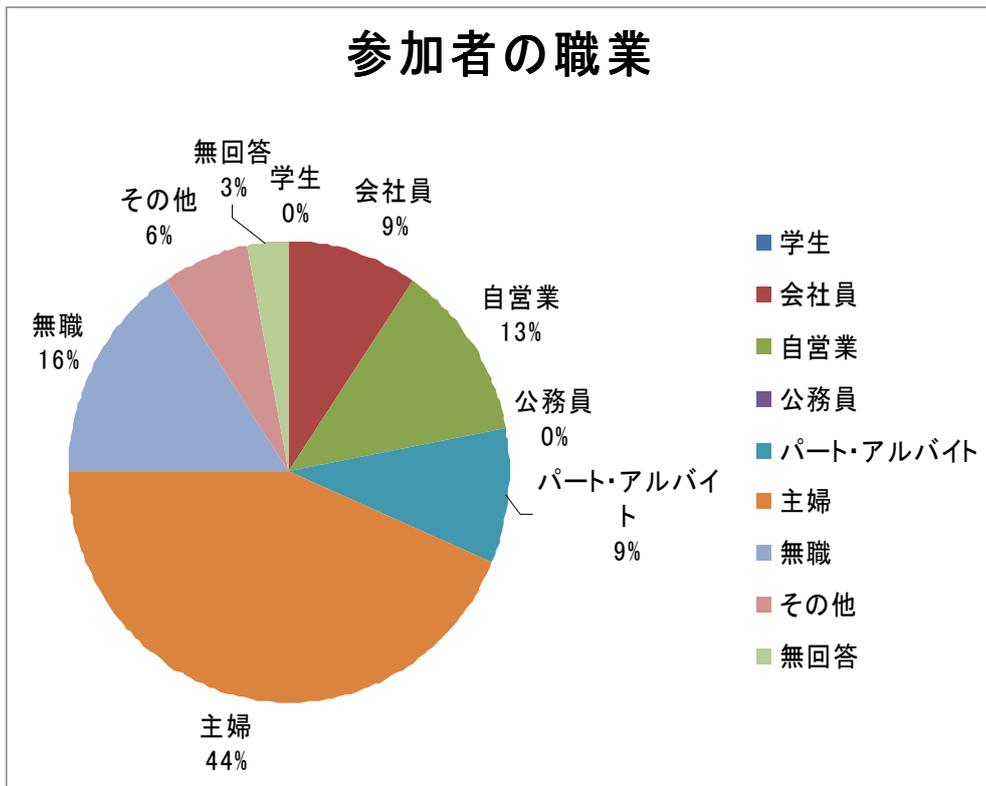
(2) 性別

回答者の性別は、「女性」が66%、「男性」が34%と女性の割合が32%も多い。



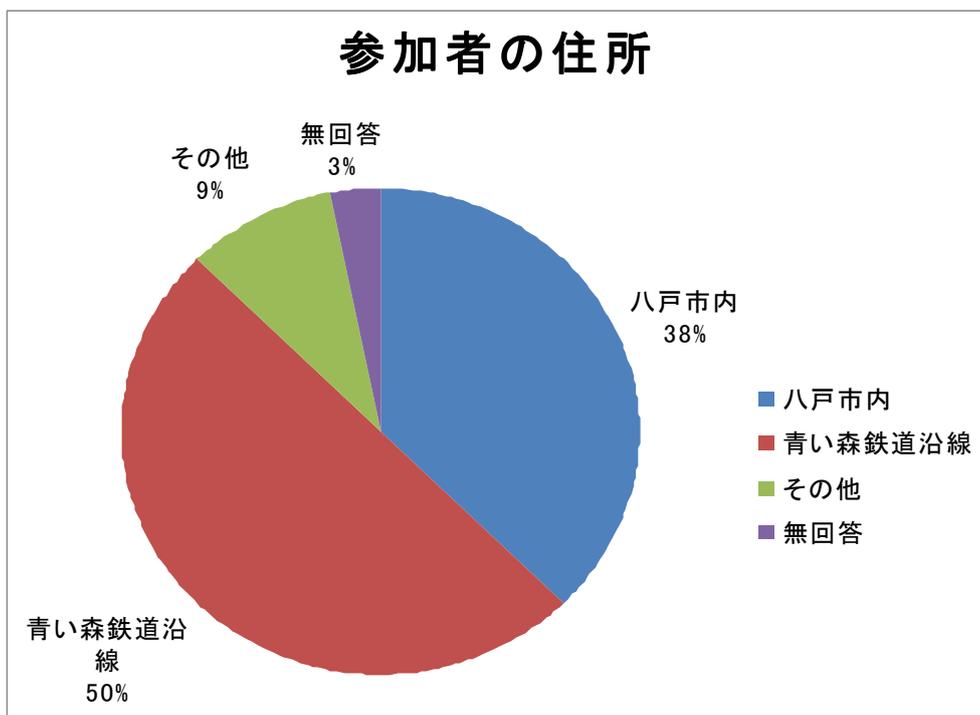
(3) 職業

回答者の職業は、「主婦」が44%と一番多く、次いで「無職」16%、「自営業」13%となっております。



(4) 居住地域

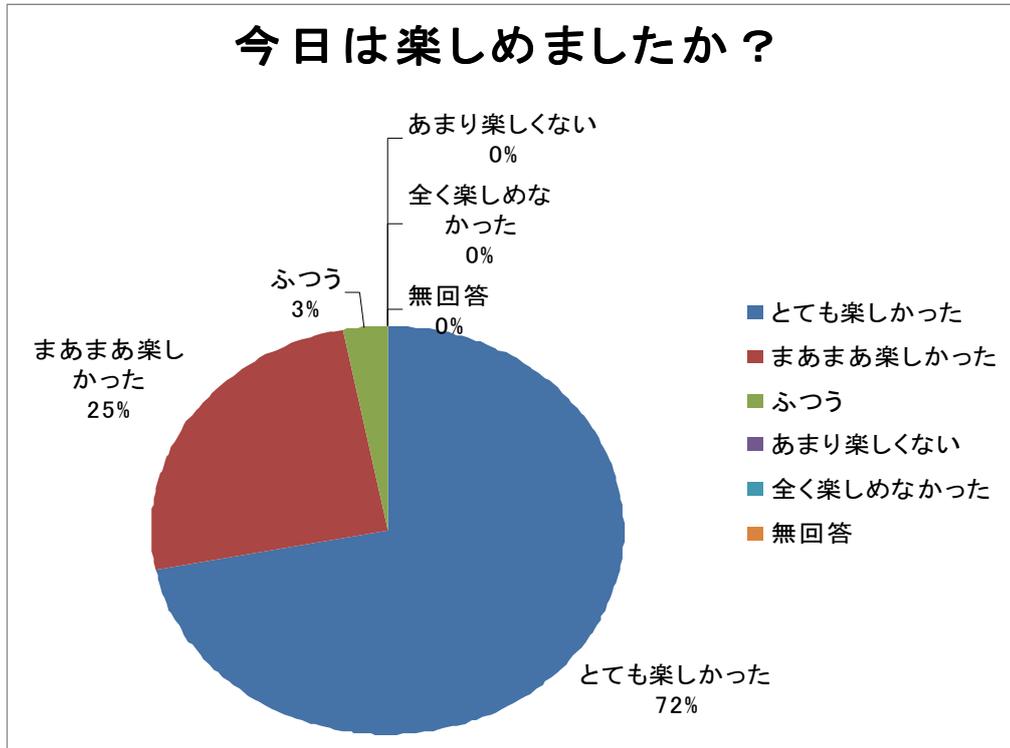
回答者の居住地域は、「青い森鉄道沿線」が50%と半分を占めており、次いで「八戸市内」の38%となっております。



歌声列車で秋の大収穫祭について

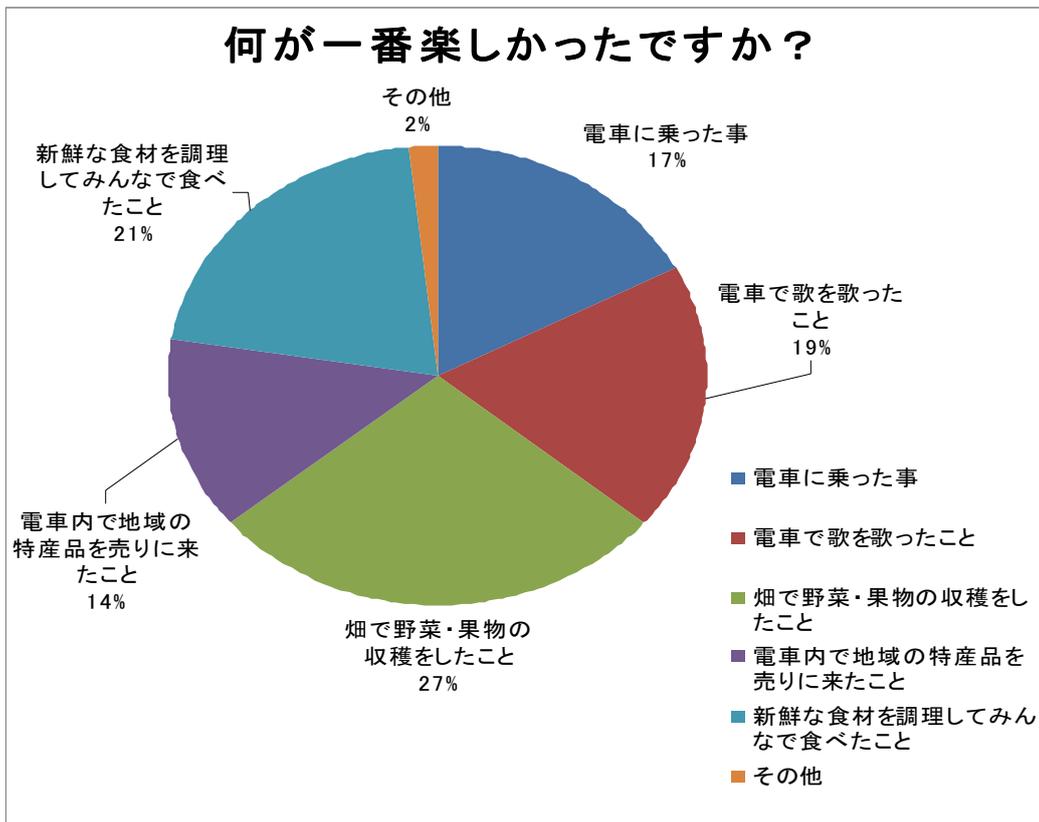
(満足度)

回答者の72%が「とても楽しかった」、次いで「まあまあ楽しかった」25%となっており、回答者のほぼ全員が楽しかったと回答している。



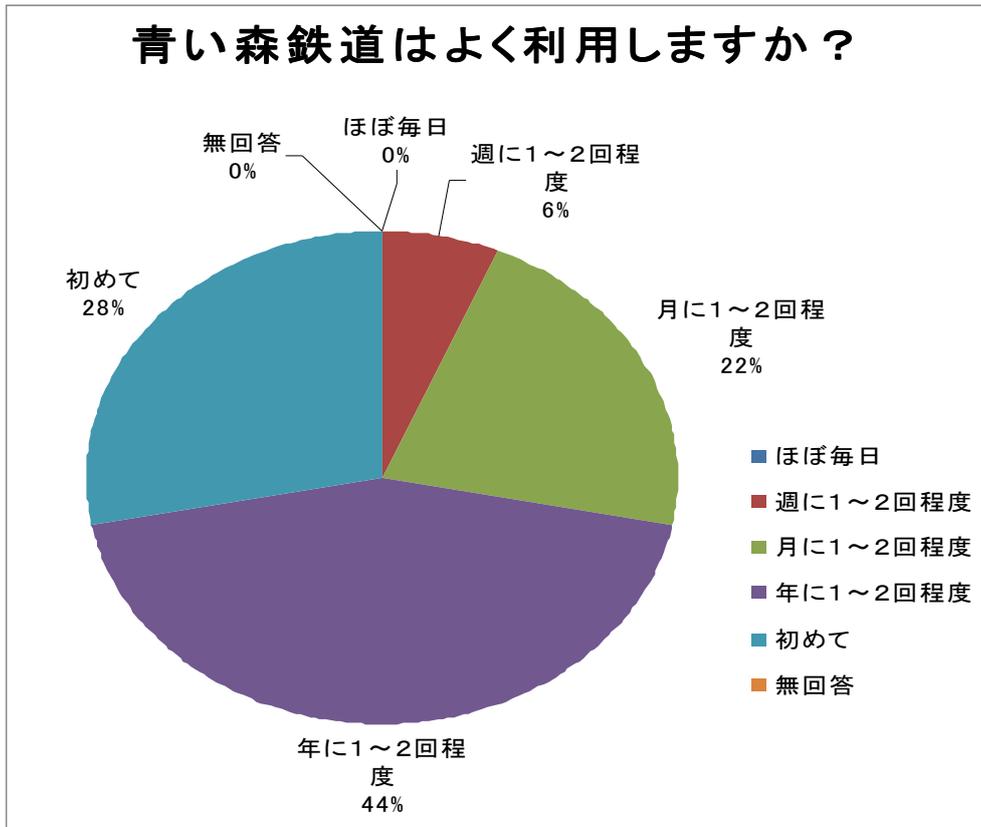
(楽しかったこと)

回答者の27%が「畑で野菜・果物の収穫をしたこと」が楽しかったと回答しており、次いで「新鮮な食材を調理してみんなで食べたこと」が21%となっております。



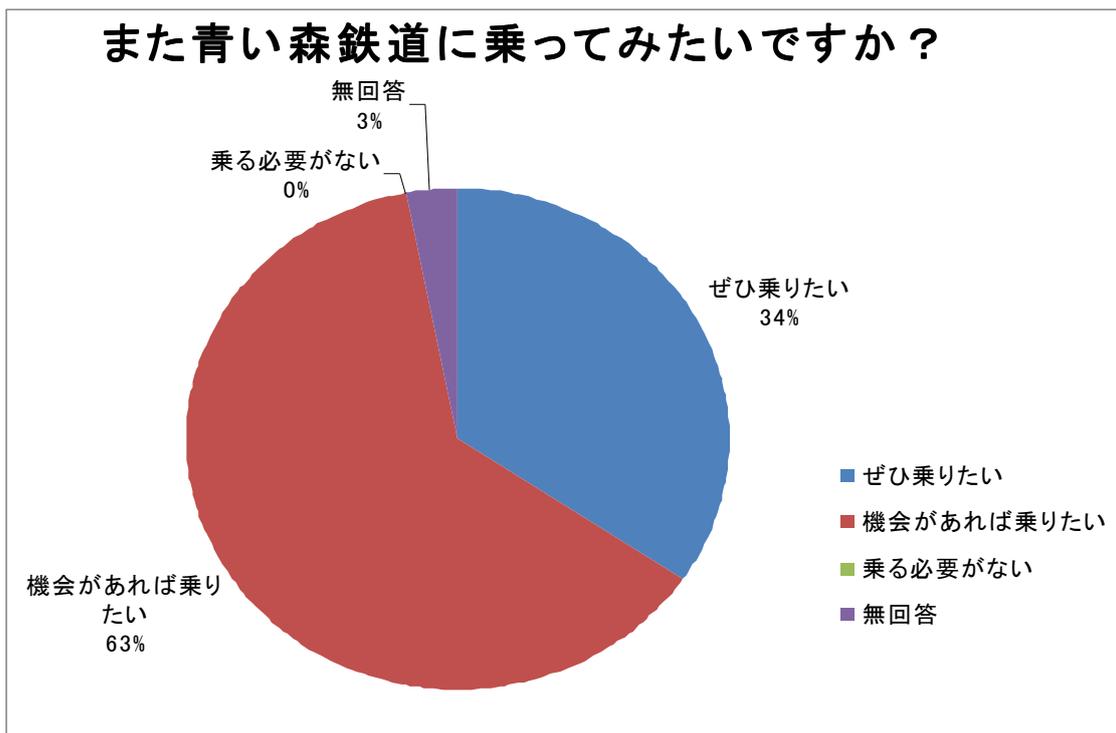
(青い森鉄道はよく利用しますか)

回答者の44%が「年に1～2回程度」利用すると回答しており、次いで「初めて」と回答した方が28%、「月に1～2回程度」が22%となっております。



(青い森鉄道の今後の利用について)

回答者の63%が「機会があれば乗りたい」と回答しており、次いで34%が「ぜひ乗りたい」と回答している。「機会があれば乗りたい」「ぜひ乗りたい」を合わせると97%となり、回答者のほとんどが青い森鉄道に乗りたいと回答している。



青い森鉄道でもっとこんなことをして欲しいという企画

- ・企画の中にどこかの時間(5分くらい)で駅の特徴について説明する部分があってもいいのでは
- ・沿線の地元と協力して今日みたいな企画をたくさん実施できることを希望します。
- ・農産物、物産をアピール+販売
- ・歌声列車のようなコンサートを長い時間やって盛り上がりたい
- ・車窓からの冬景色。目時から先があってもいいのでは？
- ・ふれあい公園は桜もあるので春の企画もお願いします。
- ・今回のようなイベントを続けてほしい。青い森鉄道を知らない方もいらっしゃるのでどんどん地域の方々にもPRしてください。できたら運賃がもう少し安くなったら嬉しいです。本日はありがとうございました。
- ・来年もぜひまた企画してほしいです。
- ・沿線での神社巡りなど IGRとのコラボレーションでミステリーツアー 貸切でお座敷列車など
- ・もっともっと地域の人を巻き込んだ企画をくめばいいのでは 自然を含めた企画もありかと
- ・乗る機会が少ないのでイベントがあれば参加したいです。金田一温泉あたりもいいかも
- ・里山歩き
- ・もっとたくさんのイベント列車があれば良いのでは(季節ごとの各市町村の観光、祭りなど)
- ・青い森鉄道が青森までとなったら、小川原湖方面のイベントを企画してほしい

参加者の意見、感想

- 電車を利用して今回のようなイベントが出来ることを知りました。素晴らしい企画だったと思います。継続的に実施することを期待しています。農業体験させていただきました。普段出来ることがないので大変よかったです。ふれあい公園の食事最高でした。スタッフの笑顔が素晴らしかった。協力的な面、みんな一生懸命でした。素晴らしい感謝感謝です。
- いろいろなお料理が楽しめて良かったです。日程の内容がもっと分かり易ければ尚良いと思いました。(解散の時間など)
- 至れり尽くせりの楽しい企画をありがとうございました。たくさんの方々に地元をもっと知る機会の場が提供できればと思ってやみません
- とても良かったです。とくに公園での飲食最高においしかった。子供たちはかけにはまってしまうました。白菜と肉の煮物、コーヒー、リンゴの揚げもの等すごくおいしく料理を覚えました。にんにくみそ最高！家でも作ります。ありがとうございました。
- とても素晴らしい企画で感動しました。電車のライブも畑での収穫も自然も車窓の風景も素敵でした。スタッフのみなさんの心のこもったもてなしに心を打たれました。ありがとうございました。また参加させて下さい。
- 野菜とカッケの組合せがとても合うので家でも作ってみたい
ツアー専用の手作りマップで見どころ、お店情報があってもいいと思う。
地域の単品パンフレットもいいがつながりがわからない。
- 青い森鉄道が以外と早い風景楽しめそうで楽しめない気がする。車内アナウンスや速度調整して景色を見たい。歌の内容もうちょっと年代に合わせて、子供代 中年代とかしたほうがいいかも
- とても楽しい企画で是非来年も参加したい
- 北高岩駅をいつも利用させていただいておりますが、駅待合室はいつもとても掃除がされきれいであります。階段から待合室までは汚れてますがどうかにならないでしょうか。たくさんの料理も勉強できありがとうございました。
- スタッフのみなさん本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。
- ふれあい公園では野菜の料理ができて美味しかったです
- 時間的にのんびりする時間が多すぎた もう少しあと2つ3つメニューを増やしてもいいかと
- 電車で歌を歌ったが、残念ながら一曲も知っていなかった。目時駅で時間がだいぶありましたことから、山の頂に近い寺があったが希望者を募って登って見たかった。
- 楽しい企画をありがとうございます。八戸駅で階段を登るときすごくワクワクしてました。
- 今回で2回参加しましたが、とても楽しかったので次回も参加したいです。
- もう少し歩きたいと思います。気持がとても良いので。楽しい企画でありがとうございます。かけ、白菜口ル等あたたかい食べ物が嬉しかったです。

- 歌声列車は子供も知っている歌とか元気の良い曲を選んで欲しかった。かけはおいしかった。
- 来年も何か企画があったらぜひ参加したい。お料理ごちそうさまでした。おいしかったです。ご苦労様でした。
- 何が一番とつけられないほどとても良かったです。
- 往復の電車賃だけでこんなに楽しめるのはありがたいですが、その分スタッフの皆様はご苦労があると思います。感想としてはちょっと申し訳ないぐらい。ありがとうございます。

アンケートからの分析

今回のアンケート調査の結果、「青い森鉄道の今後の利用について」、回答者の34%が「ぜひ乗りたい」と答えている。「機会があれば乗りたい」の回答は63%である。

しかしながら「青い森鉄道をよく利用しますか？」の問には、年に1~2回程度が44%と半数近い。初めて乗ったという人は28%である。

この結果から、実際に鉄道に乗ってみると、のどかな田園風景や川の流れる景色に日常空間とは違った時間が流れ、乗車を楽しむことが出来るが、通常は鉄道を利用する理由がなく乗車する機会が少ない。

今回、「何が一番楽しかったですか？」の質問に関しては、「電車に乗ったこと」「電車で歌を歌ったこと」「電車内での地域の特産品を売りに来たこと」と、電車内での出来事に関連する内容のものが半数であった。また、「畑で野菜・果物の収穫をしたこと」「新鮮な食材を調理してみんなで食べたこと」のように、電車にのって目的地にたどり着き、そこで楽しんだ内容に関するものが約半数であった。

これらの結果からも、理由があれば電車に乗る。乗ればある程度楽しむことが出来ると思われる。したがって、この鉄道を利活用してもらうための理由をどのように作っていくのか、またそこに価値を感じてもらえるかが今後の鍵と言えよう。

地域の魅力、地域からの情報発信、沿線全体でネットワークを組み盛り上げていく必要がある。もはや、一地域で、一つの駅で何かするというだけでは、大きな集客にはつながりにくく、点を線で結んでいくような展開が必要である。

二つの角度からアプローチをしなければならない。一つは、観光客向けへのアプローチ。企画列車を走らせ、沿線の魅力、情報発信で集客、知名度をあげていく。もう一つは、小さい頃から、生活圏内に鉄道があることを自覚し、利便性、楽しさを実感できるような取組が必要なのではないだろうか。

◇ 検証結果をもとにしたコアメンバー等による検証

- ・ 参加者からは、ある程度の参加費を払ってもいいからこれからもずっと続けてほしい企画との声があがり、そのことから予想外の展開、期待以上に価値があると判断した場合には、それ相応のお金を払ってもいいという消費者感覚がある。今後の見通しとして、季節に応じた、その地域ならではの地域と鉄道がしっかり連携をとり企画を出せば集客は見込めそうである
- ・ 企画をして楽しい、準備をしていてワクワクしてくる、当日参加者と顔を合わせうれしくなり、スタッフとして運営管理の立場で参加をしても楽しいと思える企画である。運営側の体制も大切である
- ・ 鉄道自体にも、地域と密着した雰囲気作り、イメージづくりを取り入れてはどうか(温かい雰囲気)。地域の鉄道としての一体感をだしてほしい
- ・ 沿線には自然がいっぱいなので、自然を体験できる鉄道として各駅でルートを組んでみてはどうか
- ・ 産直列車は非常に喜ばれた。参加者が拍手をもって各駅から乗り込んでくる販売者を迎えた状況から、地域の特産品を、その地域に到達した時点で買えるという行為が付加価値となり、購買意欲につながるようだ

5. 取組の検証を踏まえた展開

◇ 事業をどのように改良・展開していきたいか

- ・ 今回のようなイベントを継続的に実施できるような運営体制を考える
- ・ 沿線の地域住民と共に鉄道を盛り上げていくための組織体制を構築する
- ・ 地域単体で仕掛けるのではなく、各地域が連携をとり、沿線全体で一つのストーリーが仕上がるような取り組みにしたい
- ・ 自然が豊富な地域なので、季節に応じて自然をいかした企画を組んでいきたい
- ・ この地域ならではの、この地域でしか体験できないプログラムを組み、鉄道の利活用につなげる
- ・ 通勤・通学の移動手段としての鉄道の利用価値を認識してもらうため、子供・若者にたいして鉄道のイメージアップになるような企画をたてる
- ・ 広報でしっかり鉄道の魅力をアピールすることにより、今回の企画は有料にしても集客は見込める
- ・ 地域広報力を高める必要がある
- ・ 通年で実施でき、鉄道と地域の個性として定着したイメージを作れるような企画を考える

◇ 改良後の企画案など(例)

① 春

- ・ 元気体験ツアー → 河原などで体操・ヨガなど楽しむ。ウォーキングコースなどを設置する

② 夏

- ・ 自然体験列車 → カヌー、魚釣りやBBQなど
- ・ 列車と船でいく探検ツアー → 海辺の夏のイベントなどにあわせて船の運航時間と鉄道の時間をあわせて乗り継いで遊べるようにする

③ 秋

- ・ 秋祭り体験ツアー → 秋祭りをはしごで体験できる

④ 冬

- ・ おいしいツアー → 地域の特産品を順次、楽しめるツアー

⑤ 通年

- ・ 産直列車
- ・ 歌声列車
- ・ 絵本・小説列車 → 列車と駅舎を組み合わせ絵本や小説のストーリーが展開していく
 - * 三戸は馬場のぼるの出身地であることから、駅舎などに関しては絵本のストーリーで装飾する

- ・ 販売列車 → 沿線のお土産品の販売、もしくはスナックコーナーなどを列車の中に設置

6. 終わりに

鉄道を盛り上げるには、地域が活性化していなければならない。人のいないところでは、鉄道の利用者も増えない。鉄道が栄えれば地域も盛り上がる。そんな思いから、今回、八戸から目時駅までの沿線各地域をネットワークでつなぎたいと考えた。

八戸、南部町、三戸町が連携をして一堂に会する機会を設けたいという考えがあった。

県庁、八戸市、南部町など行政の協力を得、地域の各団体との連携を図ることができた。駅での歓迎セレモニー、各駅からの特産品の販売者の乗車、食の提供、畑の提供などスムーズに交渉が進み、全てを予定通り実現することができた。

また、歌声列車、産直列車など新しい試みにより、許可が必要なところもあったが、青い森鉄道さんが実現にむけ交渉を続けてくれたことから可能となった。

行政と民間が協働で事業を進めることの利点が上手くかみあったといえる。

まちづくりを進める当団体として、公共交通の利活用促進は重要な議題である。

現在、JR 八戸線の利活用、バスの利活用などをいかした体験ツアーの実施や、八戸の港をいかしたツアーの実施で、船(屋形船、漁船)での移動を取り入れている。青い森鉄道の利活用促進を考えることにより、さらに広範囲にわたり交流人口の増加につなげることができる。鉄道を乗り継ぎ、船に乗り海の散策をするなど、日常では体験できないような内容のプログラム構成が可能になってくる。さらなる魅力を創出することができる。

まちづくりを進める団体自身が、行動範囲を広げネットワークをひろげることにより、地域の魅力を高めることができることを実証できた。

三戸町、南部町、青い森鉄道、各団体の皆さんと関わることにより、親近感と愛着を感じ、興味・関心を強く持つことになる。こういった関わりがまちづくりの基本のように思える。